

## ■大学院受験者インタビュー3

### 中央大学／法学研究科／民事法専攻 進学 研究テーマ「貨物所有権について：船荷証券」

2010年10月インターカルト入学（2レベル）⇒2012年3月卒業（7レベル）来日時にはまだ中国の大学を卒業しておらず、一度帰国して卒業試験を受けた。来日前の大学在学中にすでに司法試験に合格していた。2011年1月に1回目の進学相談。どんな準備が必要か、大学、教授の選び方、連絡の取り方などについて聞いた。最初から研究テーマと将来の目的がはっきりしていた。この頃、早大、中大、一橋大などを検討中で、すでに早稲田の教授と連絡を取り合っていた。3月の震災時に一時帰国、5月に再来日。

#### ● 受験する大学や指導教授の探し方

来日以前には特に日本の大学院について情報を持っていなかった。来日後、先輩や友人のアドバイス、進学相談で聞いた検索方法で、研究テーマに合った教授をさがした。中央大学には研究テーマである「船荷証券」を専門に研究している教授がいて、それが決め手となった。早大や一橋大は一般的な知名度も評価も高いが、中大の教授は「船荷証券」の専門家で、面接試験で会った時の印象も良かった。その後一橋も受験したが、すでに中大に気持ちが傾いていたこともあり、あまり集中して準備しなかったためか、こちらは不合格だった。早大は結局受験しなかった。

#### ● 教授との事前の面談

早稲田の教授とは事前に連絡を取ったことがあるが、特に情報は得られなかった。中大、一橋大の教授とは事前面談をしていない。文系の場合、特に面談をする必要はなく、それよりも専門科目の試験や面接の準備に力を入れた方がいいと思う。特に、来たばかりで日本語がうまく話せない状態で教授に会いに行くのは、かえってマイナスの印象を与えると思う。

#### ● 研究計画書

大学時代から興味を持っていたことを、そのまま研究テーマにした。それについて、中国語、日本語の資料を集めて準備をしたが、日本語力があまり高くなかったので、書くのに苦労した。進学相談の先生に添削してもらった。あまりよく書けていたと自分では思えないが、司法試験に合格していたことで、法律についての基本的な学力については高い評価が得られていたと思う。

#### ● 専門科目の試験

専門科目は、過去問題を入手して検討した。商法、保険、運送について、集中して勉強した。特に商法は、日本の社会人のための基本的な本を買い、日本語の用語を確認した。国ですでに司法試験に合格していたので、知識は充分にあったが、知っている用語を日本語でどう表現するか、この本で確認した。

#### ● 口頭試験・面談

インターカルトのクラスの先生、進学担当の先生と何度も練習した。内容的にはそれで十分だった。わからないことを聞かれても、落ち着いて「わからない」と言えば問題はない。

#### ● 後輩にアドバイス

入学したばかりの頃は、周りに大学院入学志望者がたくさんいたが、次第に減って行った。アルバイトで忙しく、勉強に集中していなくて合格できなかった人、受験そのものをやめてしまった人がかなりいる。本当に大学院に入りたいなら、気持ちを強く持ち続けることが必要だと思う。中国人にとって日本での生活は大変なもので、アルバイトが必要なのはわかるが、受験前1か月はアルバイトはしないと、受験勉強に集中する期間を作ることが必要だと思う。特に研究テーマがなく、学歴のために大学院に入りたいなら、進学担当の先生に遠慮なく話して、入りやすい大学院を紹介してもらった方がいい。

中国の法体系は日本のものが元になっているので、民法、刑法は共通のことが多く勉強はしやすい。用語の確認や、一般的な社会問題の中で使われている外来語に慣れておく必要はある。また、中国関連で話題になっている問題については、注意してニュース記事を読み、自分の意見を持つ必要がある。自分は大学で法律の勉強だけをしてきて、世界情勢や日本の普通の大人が知っているような一般常識が足りない。進学担当の先生に社会科学系の最近話題になった「新書」のリストをもらい、少しずつ読んだ。

## ■采访大学院升学者-3

中央大学／法学研究科／民事法专攻 入学

研究主题「关于货物所有权：船荷証券（提单，船运发票）」

2010年10月草苑日本語学校入学（2水准）⇒2012年3月毕业（7水准）。

起初来日本时是大学在校生，第二年返回中国参加了毕业考试。国内大学在校时已经通过了司法考试。2011年1月进行了第一次的升学相谈。咨询了要准备什么、大学教授寻找方法、联络方式等。最初开始对要研究的内容和将来的目标很明确，早大、中大、一桥等考虑范围内的大学中，与早大的教授已经有过联系。3月震灾时一时回国，5月份返回了日本。

### ● 报考学校和教授的查找方法

来日之前，并没有收集日本大学院的相关信息。来日后，通过学长、友人的建议和升学相谈中所了解的方法查找了与自己研究内容相符合的教授。中央大学有专门研究「船荷証券」的教授，这一点成了报考中央大学的主要原因。早大和一桥的知名度和评价很高，但是中央大学的教授是这方面的专家，而且参加面试时对教授有了很好的印象。之后也报考过一桥，但是因为已经考上了中大没有太集中，所以最终未能合格。早大没有参加考试。

### ● 与教授的提前面谈

与早大的教授提前联系过，但是没有得到特别的信息。与中大和一桥大的教授没有做过提前面谈。觉得文科没有特别必要面谈，反过来重点放在专业科目的考试和面试准备上为好。特别是刚来日本，日语表达不太好的状态下去见教授，也有可能留下不好的印象。

### ● 研究计划书

大学时代开始具有兴趣的内容直接作为研究内容。收集了中文、日文的相关资料进行了准备，但是日语能力不是很高，所以写作方面费了不少劲。所写的内容由升学指导老师进行了修改。个人觉得写的不是很好，认为国内通过的司法考试，证明了关于法律的基础学力而给予了很高的评价。

### ● 专业科目的考试

专业科目主要是以过去考题来准备的。集中学习了商法、保险、运送。特别是对于商法，买了为了日本社会人而编写的基本的书籍来学习日文用语。本身的法律知识比较充分，主要是通过日文书籍来确认日文用语。

### ● 口头考试和面谈

通过班主任老师和升学指导老师进行过多次的练习。内容方面以上面试练习足矣。有不懂的，不要惊慌，说不知道就可以。

### ● 给后辈的建议

刚入学时，周边有很多大学院升学志望的学生，但是慢慢地减少了。忙于打工、疏忽学习而未能合格的人，放弃大学院考试的学生也大有人在。如果真正想升学到大学院的话，应该要坚定信心不能放弃。对于中国的学生来说，日本的留学生活确实不容易，打工确实有必要，但是有必要做好时间上的规划。比如，考前1个月停止打工主要精力放在考试准备等等。特别是对于没有明确的研究内容，为了学历而想升入大学院的学生，最好是直接跟升学指导老师说，尽早让升学指导老师推荐大学院为好。

中国的法律体系是以日本的法律为基础，民法、刑法有很多共通点，所以比较容易学习。有必要确认日文用语和掌握一般社会问题中使用的外来语。对于中国相关的热门话题，有必要阅读新闻来确定自己的观点。我在大学里只顾着学习法律方面的知识，缺乏世界情形、日本的一般成年人都会懂得的一般常识，所以向升学指导老师要了社会科学方面最近成为热门的新书清单，慢慢地进行了阅读。